

復伝

職員が出張等で研修してきたことについては、校内研修の時間の中で復伝の場を設け、情報を学校全体で共有し、実践につなげるようにした。

復伝例

平成18年度研修等実務担当者連絡協議会【小学校】

H18.7.27

【講演】 確かな学力を育成する工夫

広島大学 角屋重樹 教授

確かな学力の背景 (略)

知識や技能の定着 習得型学力 (略)

能力の育成 (学習意欲、思考力・判断力) . . . 探求型学力

(1) 意欲の育成

やる気のない子は、本当にやる気がないのか。

なんとなく変えなきゃとは思っている。勉強しなくてはいけないことは分かっている。

でも、なにをどうすればいいのかがわからない。

「何を」「どのように」すればいいのかを明確にする

だからといっていちいち指示を与えると指示待ち人間になる

自信をもたせる

主体性をもたせる . . . やらされているのではなく、やっているのは自分という意識

承認する . . . 教師が急げば急ぐほどすっとなでしまいやすい。とにかく認める！

(2) 思考力の育成

「比べ、分類する力」

- ・分からなければとにかく分けてみる

学問は分類から始まる

分けることが自由自在にできることが思考力の基本

低学年でしっかり経験させることが大切

例) 生活科 で川原で拾った石を色や形で分けてみる

算数 ひき算をする 大きい方から小さい方を引くことはすでに比較

鉛筆の長さを比べて長い順に並べる 系列化につながる

国語 「まず」「次に」「そして」 時間の系列で順序づけ

生活科 種 子葉 葉 花 比べて順番に並べることで時系列が分かる

大きくなったわたし 過去の自分を時系列に従って並べる

「関係付け」

- ・前のもの、周辺のものとは絶えず関係付ける 知識はネットワーク

例) 算数 立体の体積を (全体) - (部分) + (部分) で求める学習で

このやり方は5年の面積のときと同じやり方だと分かる

- ・今まで解いたことのない問題にあたったとき

考えるすべを身につけていないとすぐにあきらめてしまう

考えるすべを身につけていれば似た問題はなかったか、関係することを勉強したこととはなかったかとプロセスを追って何とか考えようとする

PISA の問題で記述式の問題ができていないのは、そういう訓練ができていないから

- ・論理的思考力を育成することは、関係づけて判断する力を育てること

結論（僕はこう思う） 根拠・理由（それはこういうデータで、理由で）

必ず理由を言わせることを徹底して行う 何回も繰り返すことで習慣になる

多分こうだろう、と推測してしまうのが日本の文化なので、日本人には苦痛だが、国際社会の中ではきちんと言わないと理解されない

（３）表現力の育成

表現すべき内容の獲得

表現のためにどういう内容をもっているのかをチェックし把握して書かせること
内容は五感を使って体験させればいい・・・ものを見せる、聞かせる、

目的をもとに的確に表す力の育成

表現の技法の問題は、何をどのように使うか、やってみて獲得していくもの

目的をもって、的確に表現するということは、国語の目標の中にきちんとある

中学年・・・目的に合わせて

高学年・・・筋道を立てて

考察する力を育てる・・・結果と考察を分ける

目的 実験 結果（データ・資料） 考察

（４）他者とのかわりによる学び

PISA の問題は世界共通の学力を求めようとする考えをもとに作られている

自国（自分の考え）の自立

他国（他の人の意見）を説得

相手との違いを認めつつ新しいものを作り出す

↓
こういう力がこれから求められる

例）PISA の問題

落書きの問題について 反対・・・落書きはいけない

賛成・・・落書きは芸術だ

・両方の意見に共通することは何か

・あなたの態度を決めて反対の立場の相手を説得しなさい

PISA でよい成績をあげたフィンランドでは授業時間数は少ないが学力は高い

自立した上で他者とのかわりの中から学ぼうとする力がついている

（５）自己を評価する力

学習者が自己を評価する力・・・メタ認知（自分を対象として見る力）

自分で目標を設定する力

設定した目標に対する位置づけをする力